

2023年2月期第1四半期 決算説明会 主な質疑応答(要旨)

決算説明会にて、ご出席の皆様からいただいた主なご質問をまとめたものです。理解促進のために一部内容の加筆修正を行っています。

Q. 第1四半期における営業利益の上振れ要因と第2四半期以降にリスクとして認識している事はあるか

A. 営業利益を牽引したのは北米CVS事業です。歴史的なインフレや消費者の貯蓄減少という市況や人件費上昇による販管費増加等厳しい状況がありましたが、想定以上にガソリン荒利が高止まりしたことで、一定の利益を享受することができたと認識しています。今後のガソリン荒利については、景気動向、消費者動向等の不確定要素が大きくなってきているため第2四半期以降は一定程度影響があるものと認識しています。

リスクについては、国内外において原材料価格高騰等の様々な影響があるものと考えていますが、現段階ではグループ各社の計画は変更せず、業績予想修正の前提を顕在化している為替変動とエネルギーコスト高騰のみとしています。

Q. 消去および全社にエネルギーコスト上昇見積もり分を加算しているが事業会社毎に割り振りはしないのか

A. エネルギーコスト上昇見積もりの95億円を消去および全社に含めたのは、各セグメントにおいて厳しい環境下においても当初計画を達成すべく鋭意取り組んでいるところであり、第1四半期時点で各セグメントへのコスト割り振りをすべきではないと考えたためであります。状況を精査し第2四半期以降に各セグメントへの割り振りを実施し、消去および全社からは減算していこうと考えています。今回の業績予想の修正の意図を明確にする為に、このような見せ方をしていることをご理解いただきたい。

Q. セブン-イレブン・ジャパンの既存店の売上について

A. 目的をもって来店いただくため、高付加価値商品の品揃え強化や、ワクワク感を演出したフェア等の施策を推進し成果が出ています。実施してきた施策に間違いがなかったと確信しています。今後も原材料価格の高騰が予想されますが、単なる値上げではなくセブンプレミアムのリニューアル対応も含めて、高品質の商品を適正な価格で提供することで、売上・利益を確保していきたいと考えています。大きな商機である夏に向けて、当施策を徹底し成果を上げていきます。

Q. 7-Eleven, Inc.の荒利率が低下した要因について

A. 7-Eleven, Inc.と Speedway の荒利率の差が顕在化したことに加えて、政策判断でコストを前倒しにしたことが要因です。Speedway ではベンダー主体のプッシュ型の納品でしたが、セブン-イレブン・ジャパンの様にお店が意思を持って発注するシステムへ転換を図っています。今後、お客様のニーズを満たす品揃えを実現していく為に、従来商品の処分を前倒しで進めた結果、第1四半期における荒利率低下に大きく影響しました。第2四半期にも一部影響が残りますが、7月以降はこのような特殊要因はなくなります。

Q. 7-Eleven, Inc.の足元の商品動向は

A. お客様の消費行動に、ガソリン単価高騰が影響を与えていると考えています。その一つが生活防衛意識からガソリンを給油されたお客様の商品買上点数が減少していることです。対策として、差別化されたPB商品、よりコストコンシャスな商品の品揃え拡大を進めており、この効果発現がポイントになると考えています。現状に満足せず、お客様に満足いただける商品の品揃えを実施していきます。

Q. 7-Eleven, Inc.のガソリンの動向は

A. 2020年、21年はコロナ影響により、ガソリン販売量が大幅に減少しました。その反動で利益確保の動きが出ていたことによりCPGが歴史的に高い年となりました。コロナ影響が緩和されればガソリン販売量は回復し、CPGは収束してくると思っていますが、2018年、19年水準までは戻らないと想定しています。

2022年1、2月に米国では再びコロナ影響により、ガソリン販売量が伸び悩み利益確保の為、CPGが高騰しました。コロナ影響は4、5月に入り落ち着いたものの、直近ガソリン価格の高騰により、ガソリンを満タン給油しない動きもみられ販売量は下振れし、その結果CPGは上昇してきています。プライスリーダーはあくまでも中小小売事業者であり、我々は状況を捕捉しながら、適正な価格設定をしているため、12月までどのように推移するか予測はできませんが、CPGは高止まりすることはなく、従来計画ベースで推移すると思っています。通期計画が保守的に見えるかもしれませんが、意図的に保守的にしているわけではなく、不透明な状況に対して四半期ごとに適宜、修正していく方が市場に対して適切な発信が出来ると考えています。

Q. 7-Eleven, Inc.のコスト構造改革について

A. コストリーダーシップ委員会の主たる目的は 7-Eleven, Inc.のコスト構造改革ですが、資本効率を上げることも目的としています。中長期的に事業の収益構造を変える取組みであるをご認識ください。

Q. 新しい取締役会はどうか

- A. 新任の取締役に当社グループの成り立ち、方向性についてご理解いただき、既に活発な議論がスタートしています。よいスタートをしたと感じており、今後についても非常に期待しています。

以 上

当社が開示する情報の中には、将来の見通しに関する事項が含まれる場合があります。この事項については、開示時点において当社が入手している情報による経営陣の判断に基づくほか、将来の予測を行うために一定の前提を用いており、様々なリスクや不確定性・不確実性を含んでおります。したがって、現実の業績の数値、結果等は、今後の事業運営や経済情勢の変化等の様々な要因により、開示情報に含まれる将来の見通しとは異なる可能性があります。